

高梁川流域 キッズ

たかはしがわりゅういき

高梁川流域の

でんとうてき

ぎょうじ

げいのう

伝統的な行事と芸能

きたぎしまのながしびな

北木島の流し雛

新高総早倉矢井浅里
見梁社島敷掛原口庄
市市市町市町市町

笠岡市



かんけい ばしょ
関係のある場所

かさおか きたぎしま
・笠岡市北木島



ぎょうじ

この行事について

きたぎしま なが しびな きたぎしまおおaura かいがん きゅうれき がつ か まんちょうじ かみびなの こぶね うみ
「北木島の流し雛」は、北木島大浦の海岸で、旧暦3月3日の満潮時、紙雛を乗せた小舟を海に
なが でんとうぎょうじ
流す伝統行事です。

こむぎ わら、または、あつがみ りょう こぶね ぶね つく ほ た なか まいつき たい
小麦わら、または、厚紙を利用して小舟(うつろ舟)を作り、帆を立てます。その中に、毎月1体
つく たい かみびな うるうどし たい ぜんご せんどう の ずし もも
作ってためた12体の紙雛(閏年は13体)と、前後に船頭を乗せます。これにアサリ寿司や桃
はな こえだ そ はまべ うみ なが ひな おく おんな ひと ひな なや びょう
の花の小枝などを添えて、浜辺から海へと流します。雛を送るのは女の人で、この雛に悩みや病
き たく かぞく あんぜん こ すこ せいちょう ねが ひる まんちょう の ひ しお
気を託し、また、家族の安全や子どもの健やかな成長を願って、昼の満潮に乗せ、引き潮ととも
に「加太へ帰って下さい」と唱えながら流します。

いっせつ ぎょうじ はじ ねん わかやましかた
一説には、この行事が始まって、かれこれ300年にもなるといわれています。和歌山市加太
にあわしまじんじゃ しんこう もと ぎょうじ もと かくかてい なが げんざい
にある淡嶋神社の信仰に基づく行事で、元は各家庭でめいめいに流していましたが、現在では
かんこうぎょうじ か おおaura はま いっせい なが おおaura こうじんじゃ あわしまさま ちい
観光行事化し、大浦の浜から一斉に流しています。なお、大浦の荒神社のそばに、淡島様の小
ほくら まつ
な祠が祀られています。